

工業簿記サンプル問題

AA 製作所では、直接原価計算を行っている。次の資料に基づき、直接原価計算による損益計算書を作成しなさい。

< 資料 >

1. 製造間接費は、製品の生産量を配賦基準として予定配賦している。年間の予定生産量は 20,000 個、年間の製造間接費予算額は、変動費が 25,000 万円、固定費が 27,000 万円である。
2. 製造間接費配賦差異は、その月の売上原価に賦課する。
3. 月末製品在庫量の評価は先入先出法による。
4. 製品の販売単価は 15 万円である。

5. 生産・販売データ (単位: 個)

月初仕掛品	0	月初製品	100
当月投入	1,600	当月完成	1,600
合計	1,600	合計	1,700
月末仕掛品	0	月末製品	200
完成品	1,600	販売量	1,500

6. 当月の原価資料

- (1) 月初製品: 直接材料費 580 万円、直接労務費 320 万円、変動製造間接費 280 万円
- (2) 直接材料費 (変動費) 9,750 万円
- (3) 直接労務費 (変動費) 4,250 万円
- (4) 製造間接費実際発生額

変動製造間接費	2,040 万円
固定製造間接費	2,360 万円
- (5) 販売費及び一般管理費

変動販売費	850 万円
固定販売費	1,250 万円
一般管理費 (全て固定費)	1,750 万円

(解答)

(単位 : 万円)

損益計算書 (直接原価計算)

売上高		(22,500)
変動売上原価		
月初製品有高	(1,180)	
当月製品変動製造原価	(16,000)	
合計	(17,180)	
月末製品有高	(2,000)	
差引	(15,180)	
原価差異	(40)	(15,220)
変動製造マージン		(7,280)
変動販売費		(850)
貢献利益		(6,430)
固定費		
製造原価	(2,360)	
販売費	(1,250)	
一般管理費	(1,750)	(5,360)
営業利益		<u>(1,070)</u>

(解説)

直接原価計算による損益計算書の作成問題です。売上原価に賦課される原価差異とその金額を正確に算定し、その差異が売上原価に加算されるのか減算されるのかを区別することがポイントになります。

以下、損益計算書の () 内に入る金額を説明します。

(1) 売上高 15 万円 \times 1,500 個 = 22,500 万円

(2) 変動売上原価

変動売上原価は、直接材料費・直接労務費・変動製造間接費の合計により算定されます。

月初製品有高 (< 資料 > 6 (1) より)

580 万円 + 320 万円 + 280 万円 = 1,180 万円

当月製品変動製造原価 (< 資料 > 1 . 5 . 6 (2) (3) より)

変動製造間接費の予定配賦額 = 変動製造間接費配賦率 \times 実際生産量

= 25,000 万円 / 20,000 個 \times 1,600 個 = 2,000 万円

従って 9,750 万円 + 4,250 万円 + 2,000 万円 = 16,000 万円

月末製品有高 (< 資料 > 3 . 5 . より)

先入先出法により算定します。

当月製品変動製造原価 / 当月完成量 \times 月末製品有高

= 16,000 万円 / 1,600 個 \times 200 個 = 2,000 万円

原価差異（＜資料＞ 2 . 6（4）より）

変動製造間接費予定配賦額 - 変動製造間接費実際配賦額

= 2,000 万円 - 2,040 万円 = - 40 万円（不利差異）

原価差異は不利差異ですから、変動売上原価に加算します。

（3）変動販売費 850 万円（＜資料＞ 6（5）より）

（4）固定費

直接原価計算では、固定費（固定製造間接費）は実際発生額を計上するので、原価差異は発生しません。

固定製造原価 2,360 万円（＜資料＞ 6（4）より）

固定販売費 1,250 万円（＜資料＞ 6（5）より）

一般管理費 1,750 万円（＜資料＞ 6（5）より）

(解答用紙)

(単位 : 万円)

損益計算書 (直接原価計算)

売上高		()
変動売上原価		
月初製品有高	()	
当月製品変動製造原価	()	
合計	()	
月末製品有り高	()	
差引	()	
原価差異	()	()
変動製造マージン		()
変動販売費		()
貢献利益		()
固定費		
製造原価	()	
販売費	()	
一般管理費	()	()
営業利益		()